

公益社団法人日本技術士会 CPD 行事 報告書

開始日時	2020 年 6 月 13 日 (土)	14 時 00 分
終了日時	2020 年 6 月 13 日 (土)	16 時 30 分
名 称	第 86 回 専門知識向上講演会	
主 催 者	公益社団法人日本技術士会 千葉県支部	
開催場所	ZOOM 講演	
行事内容	1. 主催者挨拶 (山本副支部長) 2. 講演「再生可能エネルギー×農業×政策によるイノベーション」 ~産・学・官の連携による、我が国のエネルギー革新を目指して~ 講師: 馬上 丈司氏 (千葉エコ・エネルギー株式会社代表取締役)	
参加人数	44名	

講演概要:

再生可能エネルギーによる地域活性化を目指して、2012 年に当時千葉大学講師であった馬上氏は千葉エコ・エネルギー株式会社を起業した。特に力を入れているソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)は、農地上で支柱を立てて太陽光発電を行うことで、農業と発電を両立でき、農業者の所得向上、耕作放棄地の解消、農業を化石燃料から解放、EVモビリティと移動式バッテリーの導入、エネルギーの地域での消費等を目指し、産・学・官を繋いで革新(イノベーション)を導き出したビジネスモデルの貴重な事例のベンチャー企業として取り組んでいる。現在、国内 42 都道府県、アジア 3 ケ国で事業および普及活動に関わっている。また、ソーラーシェアリングは国会代表質問で取り上げられ政府計画にも取り入れられ始めている。

千葉市内の自社農場の農地上の太陽光発電設備は昨年の台風 15 号の暴風雨にも耐え、ソーラーシェアリングで日本国内生産実績のある作物は水稻、サツマイモ、落花生、トマト、ニンニク等を含む 35 種類以上に増加している。しかしながら、ソーラーシェアリングの普及については、農地上のソーラー設備導入や運転資金の調達や補助が得られにくい、作物への太陽光の遮りの影響の見極めが必要等の課題がある。実業家であり、公共学の研究者でもある馬上氏から、講演の中で千葉県での起業に当たってのメリット・デメリット、ソーラーシェアリングの世界の状況、他の再生可能エネルギー(風力、バイオマス、小水力、地熱等)の国内の現状、再生可能エネルギーによる地域活性化研究・調査事業についてもお話し頂き、日々の技術士業務を進める上で大いに参考になった。



講演者の ZOOM 講演の様子